共に居てくださるお方

ヨハネ１４：１６

2017/1/15

　正月に入って、皇室に関する番組がいくつか組まれ、今上天皇に関わるお話がいくつか紹介されていました。福島原発の放射能漏れのとき、諸外国の高官たちがこぞって東京から遠隔地に避難し始めているとき、政府は宮内庁を通して天皇のご意向を伺ったところ、天皇は象徴天皇として大切なことは人々と共にいることであるとおっしゃって、東京に残ると固い決意をのべられたということでした。

　すべての人間が平等であるという教育を受けてきた牧師は、天皇制が良い制度だとは思っていませんし、すべての天皇が勝れた人間たちだったとも考えてはいません。しかし、３・１１の地震の時も熊本地震の時も、皇后を伴っていち早く駆け付け、避難所のフローリングに膝をついて被災者たちとお話しする、今上天皇の真摯な姿には心を打たれるものがありました。今上天皇はしばしば「人々と共に」という言い方をなさり、「象徴」という意味を深く考えた行動しておられたのだということがわかります。この天皇に限って言うならば、実に立派なお人だと認めざるを得ない気がします。そっと言いますが、スキャンダラスなゴシップ続きの多い、他国の王室などに比べると、誇りたい気持ちにさえなります。

　太平洋戦争中、すべての西欧人が帰国しなければならなかったとき、「私は日本に残り、日本人と共に生きるのです」と決心した独身女性のアメリカ人宣教師がいました。一般の日本人さえ食べ物に窮した中、どれほど苦しい思いをなさったか想像に難くありません。小さな女の子たちがそっと持ってきてくれた食べ物で、命をつないだこともいくどもあったと、牧師はその小さな女の子の一人だった「お婆さん」牧師に、何度もお話を聞いたものです。現在の私たちの教団の八王子教会は、そのような宣教師の献身があって建てられたのです。

　そうかと思うと、東北のある市で牧師をしていた人は、放射能汚染の可能性が話題になると、いち早く避難してしまいました。それを支援した牧師が、あたかも良いことをしたかのように書いていました。遣わされた土地の人々を後に残し、自分が牧会する信徒を捨てて逃げだす牧師に、ほとほと情けない思いをしたものです。

☆　キリストが生まれたとき、神は彼に「インマヌエル」というタイトルをお与えになりました。「神、我らと共にあり」と言う意味です。キリストは万物の創造者でしたが、罪人の救いのために、神であることを横に置いて無力な人の姿をとり、人として人と共に住み、人として生きてくださいました。これは人の痛みと悲しみ、困難と苦しみをつぶさに体験し、人のとりなし手として、神のみ前に最善最高の大祭司となるためです。キリストは人の痛みを体験した仲保者なのです。

　私たちも、キリストの大使、あるいはキリストの代理として、キリストのように、この世に遣わされている者です。遣わされた者として、遣わされた土地に住む人たちと共に生きることが大切なのです。それが苦しみを伴い痛みを負う生活であったとしても、私たちがキリストの大使として生きていることを自覚し、その痛みを生かして人々と共に居て、贖いの福音を伝えることによって、キリストの苦しみを共に苦しむ者となるのです。

　生きる苦しみがキリストの栄光のためであると理解できた時、私たちは苦しみを苦しみと感じることなく、痛みを痛みと感じずに、かえって喜びと感じ、光栄と思って生きることが可能なのです。パウロは「今のこのときの苦しみは、やがて現わされる栄光に比べると、言うに足りない」と断言しています。

　十字架にかけられて葬られたキリストは、三日目に甦り、大切な言葉を残して天にお帰りになりました。「私は世の終わりまであなた方と共に居るのである。」 キリストは、今も私たちと共に居てくださる神です。と言うよりも、キリストは今、聖霊を通して私たちの内に住んでいて下さる神です。いちど堕落し、神から追放され、滅びの道を歩んでいた私たちは、今や、神に受け入れられ、神と共に生きる者とされただけでなく、神を内に宿すことができるものとされたのです。キリストの血潮によって清められた私たちの内には、神がお住み下さり、私たちの生きる力となって下さるのです。

　神に住んでいただいている私たちは、もっともっと、その重大な意義、その深い意味を理解し、大切にし、その事実に立った生き方をし、その霊的現実に根差した暮らし方をしていきましょう。私たちはただの人間ではなく、神を内に宿している人間、特別な人間なのです。

私たちは内に住んでいてくださる神によって、神に似せて造られた自分の人間としての性質を、より豊かにより明らかにそしてより鮮やかに、現わして行くことができるのです。

　それを実現するのは、私たちの神に対する信頼と、信頼に根差したやる気、実行力です。私たちは内に住んでいてくださる神に信頼して、神に喜ばれる生き方をするのです。